

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34453

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22227

研究課題名(和文) 小学校家庭科及び生活科における「家族」の学習に市販絵本を活用した学習教材の開発

研究課題名(英文) Development of Learning Materials Using Picture Books for Learning "Family" in Elementary School Home Economics and Life Studies

研究代表者

鈴木 千春 (SUZUKI, Chiharu)

大和大学・教育学部・准教授

研究者番号：60874831

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小学校家庭科及び生活科の家族の学習において、効果的な絵本の活用方法を明らかにすることであった。両教科の授業に絵本「おんぶはこりこり」(アンソニーブラウン2005)の活用を考案した。絵本の選定のポイントは、学習指導要領の学習内容を含んでおり、授業者側と学習者側の読み取りが一致していることであった。しかし、授業には考えたり書いたりすることができる授業用教材が必要であることから、2種類のワークシート(以下：WS)を作成した。絵本の活用は、家庭科では、アドバイザーとして「野線」に書くWS、生活科では、家族の一員として「吹き出し」に書くWSのセットが学習に効果的であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

絵本は自由な発想が楽しめる幼児の本としての認知が高い。しかし教科教育の教材として有効に活用できることを学校現場に、また社会に広く公表できる点は、本研究の成果と言える。さらに、絵本と教科の特性、WS、発達段階などを包括した研究であり、その関係性を解明できたことにより、有効な絵本の活用方法を示すことができた。この点に学術的な意義があったと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify how to use picture books effectively in elementary school home economics and life studies. For both subjects, the picture book "onbu ha korigori" (Anthony Brown 2005) was used. The key point in selecting the picture books was that they included the learning contents of the course of study. Also, the readings of the teacher and the learners were consistent. The class needed teaching materials that enabled them to think and write. I made two types of worksheets (below: WS).

As for the use of picture books, in home economics, it was effective as a set with WS to write on "ruled lines" as an advisor. For life studies, it was effective to set the WS to write on "speech bubble" as a member of the family.

研究分野：教科教育学

キーワード：小学校 家庭科 生活科 ワークシート 家族の学習 絵本 授業実践

1. 研究開始当初の背景

(1) 1997年文部科学省は「学校図書館法の一部を改訂する法律」を受け、すべての学校に向けて司書教諭の設置に努めるように通達した。2001年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、学校現場の環境整備が進み、児童生徒や教員が絵本を含めた様々な書籍を活用しながら学習を行ってきた。2008年小学校学習指導要領の改訂に伴って、国語では低学年における言語活動の充実を図る取り組みに、絵本の読み聞かせなどが位置づけられた。学校教育の中で絵本が用いられることは珍しくない。

(2) 絵本はイメージを特定して伝えやすく内容理解を容易くするメディアである(鈴木ら 2018)が、教科教育の教材としての活用は、実践事例の報告に留まっており根拠を示した研究は少ない。それは、学習に適した絵本の選定のポイントや学習方法の曖昧な部分が起因しているものと考えられた。

(3) 申請者らはこれまでに、「家族」の学習に焦点を当てた絵本の選定とその選定のポイントを明らかにした。しかし、選定した絵本を活用した授業実践が行われていないため、学習目標を確かに達成しうるかは不明であり、教材として有効であると言い切るには不十分であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究では「家族」の学習が含まれる小学校家庭科及び生活科に焦点を当て、絵本を活用した授業を考案し実践的研究を行う。

(2) 教科の特性に応じた絵本の選定のポイントと、発達段階の違いによる効果的な絵本の活用方法を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 両教科に絵本を活用した授業実践を行った。事前調査、授業中の成果物、事後調査の3点を回収し、絵本の学習効果を検証した。

(2) 発達段階、教科の特性を踏まえた絵本の活用を提案するため、両教科から得られた結果を比較検討した。

(3) データの分析には、教科を専門とする大学教員、小学校教員が協議して行った。また、平均と標準偏差を算出しt検定を行った。数の偏りの有無調査にはFisherの正確確率検定を行った。

4. 研究成果

(1) 両教科の家族の授業に活用した絵本は、家庭の仕事が分担できていない家族が描かれている「おんぶはこりごり」(アンソニーブラウン 2005)である(表1)。絵本の選定には、学習指導要領に記載されている学習内容が、絵や文章によって明確に表現されているもの、また、授業者と学習者の間で絵本の読み取りにずれが生じないもの、この2点がポイントであることが分かった(鈴木ら 2018)。

表1 『おんぶはこりごり』基本情報と学習内容

題名『おんぶはこりごり』	平凡社, 2005年	<p><小学校家庭科の内容></p> <p>「自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと」「家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることがわかり、自分の分担する仕事ができること」(文部科学省 2008)</p>
表紙絵	アンソニー・ブラウン: 作絵 藤本朝巳: 訳	<p><ストーリー展開のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・父、母、息子2人の4人家族。 ・母は仕事と家事を忙しくこなしている。 ・母だけが家事をしている ・母はある日、家出をする。 ・何もしようとしなかった父と息子たちが家事の大変さに気づく。 ・掃除、食事、アイロンがけなど仕事を分担し合うようになる。

(2) 授業は絵本を提示するだけでは成り立たないことが判明し、児童が迷わずに考えたり書いたりできる授業用教材が必要であった。その教材として、2種類のワークシート(以下: WS)を

作成した。1 つ目は、イマジネーション育成のアプローチから「家族の一員」になって「吹き出し」に記入する形式の WS (家庭科では WS-A (図 1)・生活科では WS- (図 3))、2 つ目は、国語教育的なアプローチより「アドバイザー」になって「罫線」に記入する形式の WS (家庭科では WS-B (図 2)・生活科では WS- (図 4)) である。

(3) 小学校家庭科の授業実践の結果は、いずれの WS を活用しても、児童は WS に【役割を分担する】工夫を記述することができ、学習目的は達成できた。記述の特徴は、WS-B が具体的かつ相手に提案する、WS-A は抽象的かつ相手に命令するような表現が多くなった。WS-B は事後調査に「家族と聞いて思いつく言葉」の数が有意に増加した(表 2)。特に「役割分担」の言葉が出現したことは特徴といえる。以上のことから家庭科では WS-B が学習に効果的であった(鈴木ら 2022)。

表 2 家庭科の事前・事後調査の記述内容件数

クラス	事前 $m(SD)$	事後 $m(SD)$	検定
WS-A 群 $n=34$	6.3(3.5)	6.9(2.8)	$n.s.$
WS-B 群 $n=36$	6.8(2.8)	8.4(3.1)	**
検定	$n.s.$	*	

* $p<.05$ ** $p<.01$



図 1 WS-A

図 2 WS-B

(4) 生活科の授業実践の結果は、家庭科と同様にいずれの WS を活用しても【手伝う】に関する工夫が記述できた。また、事後調査において【協力】や【心情(感情)】内の家族は「大切・大事」を記述する児童が多く学習目標は達成できた。記述の特徴は共に抽象的で、WS- が相手に命令する、WS- が相手に提案する表現が多くなった。特に生活科では、(表 3) に示したように工夫点の量的な視点からみると WS- が有意に増加し学習に効果的であった(鈴木ら 2023)。

表 3 生活科の事前・事後調査の記述内容件数

クラス	事前 $m(SD)$	事後 $m(SD)$	検定
WS- 群 $n=63$	5.3(3.4)	6.3(3.4)	*
WS- 群 $n=61$	5.7(2.7)	6.9(2.6)	**
検定	$n.s.$	$n.s.$	

* $p<.05$ ** $p<.01$

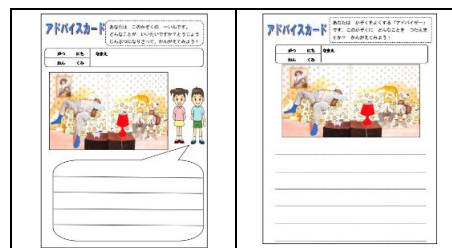


図 3 WS-

図 4 WS-

(5) 絵本を教材として活用する場合は、児童が迷わずに考えたり書いたりできる WS とセットにすることが学習に効果的であることが示唆された。特に家庭科では絵本「おんぶはこりごり」と WS-B を、生活科では絵本「おんぶはこりごり」と WS- のセットが推奨された。

(6) 本教材の有用性を確認するため、小学校家庭科担当者が参加した 2 か所の研究会において聞き取り調査を行った。協力を得られた 10 名の担当教員には、絵本と WS、指導案等を公開し、授業実践の結果報告、研究の趣旨や教材の使用方法などの説明を行った。両教科の 2 種類の WS は、いずれも修正が必要だとする個所はなく、ほとんどの担当教員が使用したいと回答した。

(7) 本研究によって、有効な絵本の活用方法は、絵本と WS のセットであることが示唆された。また、WS は発達段階によって効果的な種類が異なった。本教材を使用したいと回答した教員も多く、概ね授業用教材として提供できるまでに至った。

< 引用文献 >

文部科学省 (1997). 学校図書館法の一部を改正する法律等の施行について (通知). https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/012.htm (2023 年 6 月 10 日取得)

文部科学省 (2001). 子どもの読書活動の推進に関する法律の施行について (通知). https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/002.htm (2023 年 6 月 10 日取得)

文部科学省 (2008). 小学校学習指導要領 (平成 20 年告示). 東京書籍. 1997 年文部科学省
鈴木千春・小林裕子・村田晋太郎・永田智子(2022). ワークシートの違いが絵本活用授業の学習効果に与える影響 小学校家庭科の家族の学習を題材に 教育メディア研究 28(2).15-

26.

- 鈴木千春・小林裕子・村田晋太郎・永田智子(2023). 小学校生活科「家庭と生活」の授業実践及び学習効果 小学校家庭科における家族の学習教材を援用して . 日本教科教育学会誌 . 46(1). 1-11.
- 鈴木千春・永田智子・蒲原 有紀(2018). 小学校家庭科「家庭生活と家族」の学習に適した市販絵本の選定-大学生と小学生の読み取り調査をもとに-. 教育メディア研究 . 24(2). 1-12.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 鈴木 千春、小林 裕子、村田 晋太郎、永田 智子	4. 巻 28
2. 論文標題 ワークシートの違いが絵本活用授業の学習効果に与える影響—小学校家庭科の家族の学習を題材に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育メディア研究	6. 最初と最後の頁 15～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24458/jaems.28.2_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木千春、小林裕子、村田晋太郎、永田智子	4. 巻 46
2. 論文標題 小学校生活科における「家庭と生活」の授業実践及び学習効果 - 小学校家庭科における家族の学習教材を援用して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 1～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18993/jcrda.jp.46.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木 千春、小林 裕子、永田 智子
2. 発表標題 小学校家庭科「家族の学習」に絵本を活用したワークシート開発
3. 学会等名 日本教育メディア学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------